



TKSだより

第33号

つばさ

富山県立高岡高等支援学校
令和3年3月5日発行

「ピンチはチャンス」

校長 清水克人

卒業生並びに保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

今年度は、コロナの影響により健康・衛生面や命を守ることに真剣に考え、様々な場面で忍耐を余儀なくされた1年でした。

ピンチの場面は多々ありましたが、ピンチをチャンスに変える努力をしている人はたくさんいます。「ピンチはチャンス」ではありません。「ピンチはピンチ」です。しかし苦境に立たされたとき、ピンチのままで終わるか、そこから、普段は考えないような何かを生み出すかはその人次第です。

「ピンチはチャンス」の意味は、自分から主体的にピンチをチャンスに変える努力をした人にだけ与えられるきっかけになるものだと思います。

私たちは、コロナ禍の中での生活を続けながら、以前にも増して命や健康・衛生について考え、守るための生活習慣を実践できるようになりました。周囲への迷惑を考え、常識の概念を考え、「いつも通り」の大切さを考えるようになりました。行事運営や働き方を工夫するようになりました。

卒業生の皆さんには、この不安定な時代を力強く生きるために、受け身にならず自信をもって、自ら考え自ら行動して行ってほしいと願っています。

地域の皆様、関係機関、企業・事業所の皆様には、一年間、大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。今後とも卒業生や在校生への応援をよろしくお願い申し上げます。

「卒業によせて ～『相談』は大切！～」

3学年主任 古本智美

社会人になれる3年生19名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。併せて、皆さんが希望する企業への就職もおめでとうございます。

今年度は、学校の生活や行事が大きく変わった年でした。特に就業体験では、夏季休業中に第1回の体験が始まりました。不安や緊張の中、前向きな気持ちをもって努力した姿は、大変立派だと思いました。保護者の皆様にも、毎日様々な面でご協力をいただきました。企業の方も、皆さんの性格や特性を理解、配慮し、できる仕事を用意して受け入れてくださいました。この場を借りて、ご協力を賜りました全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、皆さんの4月からの就労生活ですが、会社の一員となり、就業体験より仕事への責任が重くなります。仕事の量や内容も少しずつ変化するかもしれません。困ったことや戸惑うことが出てくるかと思います。その時には、周りの人に相談することが大事です。職場や家族、学校、就業・生活支援センター、友達等、皆さんにはたくさんの支援者がいることを思い出してほしいです。「〇〇が分かりません。教えてください」、「□□はどうしたらよいですか」等、学校で練習した成果を発揮し、自分から気持ちを伝えましょう。また、家庭生活でも、給料をもらうことでお金の貯め方や使い方、余暇の過ごし方等も学生とは違いがでると思います。将来の夢に向けて、どのようにお金や時間を使うかを周りの人に相談し、助言を受けて計画を立ててもらいたいと思います。

私も周りの先生方や家族に色々と相談することで仕事を続けられています。皆さんも、困ったことを一人で抱え込まず、周りの人に相談しながら生活することを心掛けてください。皆さんが、素敵な社会人として成長していくことを心より期待します。

3 学年修学旅行



12月17日(木)から1泊2日で、修学旅行に行ってきました。いなみ木彫りの里創遊館や富山県美術館、宇奈月温泉街の散策など自分たちの郷土である富山県内の産業、歴史、文化、自然について触れ学んできました。新型コロナウイルスの影響で従来の行き先とは大きく変更になりましたが、3年間共に過ごした仲間と高校生活最後の楽しい思い出を作ることができました。

受賞者報告

第 27 回全国特別支援学校文化祭
優秀賞 堀 拓夢

令和 2 年度生徒図書委員表彰
平田 蒼波

令和3年度当初の行事予定

4月 8日(木) 始業式、入学式

4月30日(金) 学習参観、PTA 総会、学年懇談会、携帯電話安全教室

1 年間を振り返って (アクションプラン評価)

教頭 神田賢二

学校評価アンケートに御協力いただき、ありがとうございました。全 12 項目で「かなり思う」「やや思う」との回答が 90%以上であり、本校の教育活動に概ね満足いただいていると捉えております。今後も保護者の皆様の忌憚のない御意見をお聞かせいただきますようお願いいたします。本年度のアクションプラン評価は以下の通りです。

重点課題	達成目標及び達成度	評価
1 学習活動: 互見授業を踏まえた授業改善による学習指導の充実	一人2回以上授業を参観し、授業改善のための助言をする教員の割合 ⇒達成度 100%	A
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 授業を参観できるような環境づくりについては、教員が公開授業を参観しやすい体制を整えたり、全教員に職員会議の場で授業後のアンケート提出について繰り返し依頼したりしました。 互見授業後のアンケートについては、図書・情報部が目標とする ICT 機器を活用した授業改善の内容に視点を絞ることで質問項目を減らしたり、記入しやすいように感想(生徒の様子、教材、教師の言葉がけ等)や授業者へのアドバイスの欄を設けたり、工夫・改善を図ることができました。また、指導案作成や授業参観の際に参考にできるように、主体的に学びを促す手立て6つ、対話的な学びを促す手立て5つ、深い学びを促す手立て4つを記載しておくという工夫も試みました。 	
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器については、教員間のコミュニケーションをしっかりと取り、お互いがアドバイスしあえる関係を今後も築いていくことが必要であると考えます。互見授業やそのための指導案作成、感想カードは継続して実施し、時代に沿った具体的な取組についてはその都度考えていくこととします。 	
2 進路支援: 社会的・職業的自立のための移行支援の充実	在校生や卒業生の情報、就業生活上必要な支援について共有する場の設定(教員間での共有、学校と支援機関との共有)6回以上 ⇒達成度 100%	A
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の就業体験後に学年会を実施し、就業体験からの評価を共有しました。その中で、学校で今後行う支援の内容、職場での適切な就業時間、仕事内容、職場環境等、生徒たちが卒業後安定して働くことができるために必要な合理的配慮について検討しました。 ハローワークや就業・生活支援センターなど支援機関との情報交換の場を設けました。3年生については、実態や就労に向けての進捗情報、合理的配慮を伝えることで、支援機関から必要な情報を得ることができました。また、卒業生については、学校から支援機関への支援のスムーズな移行に向け、職場での様子など情報の共有を行いました。 	
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は高岡市の支援機関との連携を図るよう取り組みましたが、来年度以降、他の地域にも広げていき、卒業生が安定した就業生活を送る手助けをすることが必要であると考えます。 	
3 情報: 障害や各教科等の特性に合った ICT 教育の充実	ICT 機器を活用した授業改善を実施した教員の割合 ⇒達成度 100%	A
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を活用した効果的な授業実践のための職員研修・授業研究を下記の内容で3回行いました。 <ol style="list-style-type: none"> 各教科における ICT 機器の活用事例の発表 外部講師を招聘しての公開授業と講演会 Google Suite for Education の双方向通信の体験 ICT 機器の活用法については、各教科における ICT 機器の活用事例の発表や公開授業、互見授業等より、資料やワークシートの提示、板書の変りとしての活用が多くみられました。 ニーズに合った ICT 機器やソフトの活用法については、公開授業後に ICT 機器活用の良かった点と改善点について有識者にご助言を頂いたり、社会自立や主体的な学びを促す ICT 機器の活用方法についての講演を通して、今後の ICT 機器の活用の考え方やポイント、問題点等について幅広くご教授頂いたりしました。 	
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 障害特性に合った ICT 機器の効果的な活用法を他校の事例も参考にしながら検討していきます。また、遠隔授業についても対応していきたいと考えます。 	